

①納税者が配偶者を扶養している場合  
(例：所得税額4,800円、住民税所得割額12,000円)

所得税

定額減税可能額  
3万円×2人=60,000円

所得税額  
4,800円

①

住民税所得割

定額減税可能額  
1万円×2人=20,000円

住民税額  
12,000円

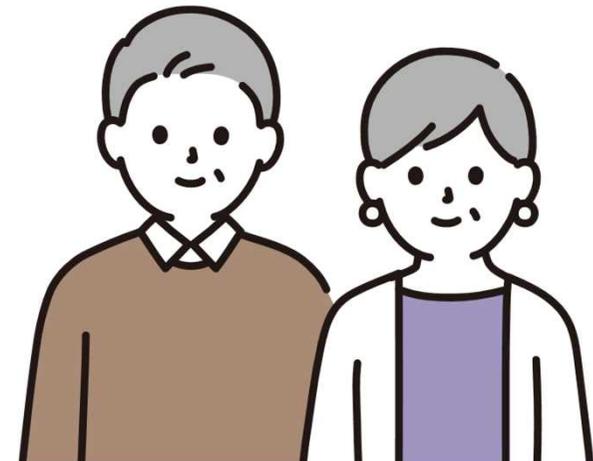
②

$$60,000円 - 4,800円 = 55,200円 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$20,000円 - 12,000円 = 8,000円 \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} = 63,200円$$

→ 調整給付金額 **7万円**



②納税者が配偶者と子3人を扶養している場合  
(例：所得税額39,500円、住民税所得割額60,000円)

所得税

定額減税可能額  
3万円×5人=150,000円

所得税額  
39,500円

①

住民税所得割

定額減税可能額  
1万円×5人=50,000円

住民税額  
60,000円

②

$$150,000円 - 39,500円 = 110,500円 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$50,000円 - 60,000円 = \blacktriangle 10,000円 (0円) \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} = 110,500円$$

→ 調整給付金額 **12万円**



③ **納税者が配偶者と子1人を扶養している場合**  
(例：所得税額99,100円、住民税所得割額213,600円)

所得税

定額減税可能額  
3万円×3人=90,000円

所得税額  
99,100円

①

住民税所得割

定額減税可能額  
1万円×3人=30,000円

住民税額  
213,600円

②

$$90,000\text{円} - 99,100\text{円} = \blacktriangle 9,100\text{円} \text{ (0円)} \quad \dots \text{①}$$

$$30,000\text{円} - 213,600\text{円} = \blacktriangle 183,600\text{円} \text{ (0円)} \quad \dots \text{②}$$

$$\text{①} + \text{②} = 0\text{円}$$

→ **調整給付金なし (全額定額減税可能)**

